

アパートの鍵貸します

The Apartment

鑑賞日：2017・2・13

制作 1960年 米 モノクロ 上映時間 121分

監督 ビリー・ワイルダー

出演者 ジャック・レモン、シャーリー・マクレーン

受賞 第33回アカデミー作品、監督、脚本、美術、編集賞受賞

(あらすじ)

ニューヨークにそびえたつ摩天楼の中にある大保険会社に勤務する平社員のバクスター（ジャック・レモン）は上司たちの浮気用に自分のアパートを提供して出世を狙っている。ある日、このアパート貸しの件が人事部長に知られて呼び出されたが、人事部長から自分も仲間に入れろと言われ、部屋を貸すと、直ちに昇進したうえ、個室まで与えられた。

バクスターはエレベーター・ガールのフラン（シャーリー・マクレーン）に惚れているが、彼女は人事部長に首ったけで、バクスターの部屋で密会を重ねているこのことを知ったバクスターはクリスマスの夜、酒場で酔っぱらい、酒場で知り合った年増の金髪女と意気投合して自分のアパートに連れ帰ると、そこには、離婚する気のない部長に失望して、睡眠薬自殺を図ったフランが倒れていた……

(解説)

主人公のバクスターは入社3年目の平社員で、コネも才能もない。会社で出世するにはこれしかないとはばかりに、上役にアパートの自分の部屋をホテル代わりに提供して、念願の昇進と個室を手にする。しかし、恋した女が上役の相手と知れば落ち着かない。大都会に暮らす健気な男女を主人公にしたこの物語は、風刺の効いた洒落た喜劇としてアカデミー作品、監督、脚本賞他に輝いた。

都会派監督として評価の高いビリー・ワイルダーの微密な演出は、小道具を伏線として巧みに使い、劇に緊張感をもたらす。フランの割れたコンパクトミラーで顔を映したバクスターは瞬時に人事部長とフランの関係を知ることになる。失意のバクスターはその夜、酒場でひとりマティーニを飲み、横に飲んだグラスの数のオリーブの刺さった6本の妻楊枝が置かれている。失意の時間の長さがわかる。ラストシーン近く、フランがバクスターの部屋の前に立つと、中から銃声一発。自殺かと思いきや、自分の門出を一人で祝福したバクスターがシャンペンを開けた音だったなど数多くの仕掛けが面白い。

ジャック・レモン（1925~2001）の緩急自在な演技は素晴らしい。この映画でアカデミー賞主演男優賞にノミネートされたが、惜しくも賞を逸した。しかし、評価は高まり、この映画でスターの地位を確立した。その後、1974年『セイヴ・ザ・タイガー』で主演男優賞を得ている。シャーリー・マクレーン（1934~）は、男にだまされるお人よしの娘を好演した。レモンと同じくこの映画で主演女優賞にノミネートされたが、賞を逃した。しかし、1984年『愛と追憶の日々』で主演女優賞を獲得した。